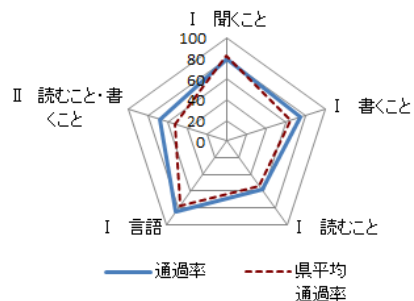


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 75.6%, 県 68.0%)

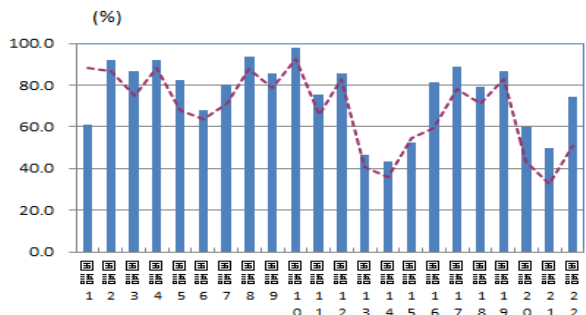
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



本年度の結果について

- 全体的な傾向
国語科の結果において、タイプIは77.3% (聞くこと80.0%, 書くこと75.3%, 読むこと58.5%, 言語84.3%), タイプIIは67.8%の通過率となっている。この結果から、領域別でみると読むことに課題がみられる。
 - 昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は読むこと、書くことについて課題があると考えた。読むことについて次の3点のような取組を行った。
 - ① 読み取り方を意識した授業を行う。
 - ② 家庭学習を活用して、自分の力で要点をまとめる課題に繰り返し取り組ませる。
 - ③ 初見の文章に慣れさせる。(教科書以外の文章読解を宿題等に取り入れる。)
 - 書くことについて次の3点のような取組を行った。
 - ① 理由付けの表現を多様化させる。(「理由は～からです」のみになっている。)
「3文で」「〇〇という言葉を使って」等、条件をつけて文章化することに慣れさせる。
 - ② 多様な表現の例示をして、表現の仕方を学ばせる。
 - ③ グラフ等様々な情報から必要な情報を取り出したり、情報を関連付けたりする課題に取り組ませる。
- その結果として、全体としておおむね定着してきたが、個別で見ると定着が十分でないところもある。

重点課題

- 【課題1】読むこと「叙述を基にした想像 (自分の考えの記述)」
叙述を基に登場人物の状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連させてとらえることができていない。また、文末が「から」「ため」になっていない児童が31.5%いた。(設問三-5 (2) 通過率43.3%)
- 【課題2】書くこと読むこと「情報の取り出し・情報を関係付けた記述」
資料から必要な情報を取り出し、それぞれの情報を関連付けて論理的に説明することができていない。いくつかの情報を取り出すことはできたが、全ての情報を取り出すことができなかった児童は28.2%いた。(設問五-3 通過率50.0%)

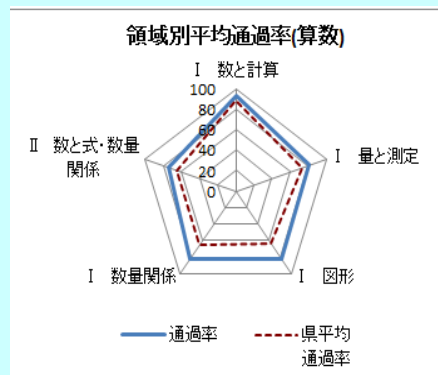
重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】
 - ・物語文の学習では、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせて物語の世界を豊かにかつ具体的に感じ取らせる。そのために、叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる活動を充実させる。また、そのまとめた考えや物語の感想を伝え合う活動を意図的に取り入れ、考えを広めたり深めたりさせる。
 - ・問われていることを正しく読み取り、文末表現に気を付けて答えさせる。
- 【課題2】
 - ・目的や必要に応じて情報を取り出し、それらを関係付けて書く活動を充実させる。具体的には、様々な情報を収集した際に、その中から具体的な事実と自分の意見等を区別しながら情報や内容を整理させる。
 - ・元の文章の構成や表現をそのまま生かして短く要約をさせる。要約する目的を明確にし、大事なことを落とさず要約する経験を積み重ねる。

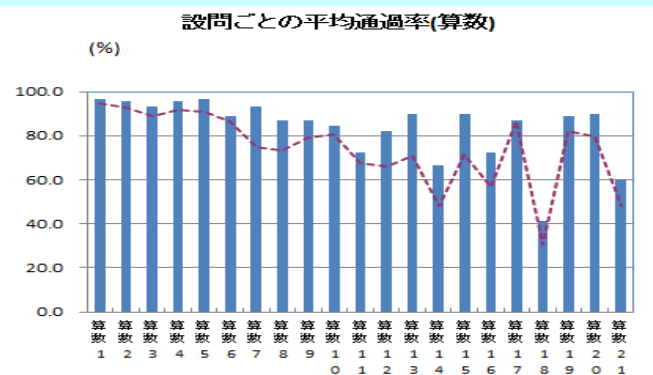
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問三 類似問題		3~6年 学力標準調査 記述問題		4, 5年 大問三 類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率50%		全国平均値以上		通過率60%
実施後数値	評価・改善						
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問五 類似問題		3~6年 学力標準調査 記述問題		4, 5年 大問五 類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率55%		全国平均値以上		通過率60%
実施後数値	評価・改善						

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 83.7%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
算数科の結果において、タイプIは87.0%、タイプIIは73.1%の通過率となった。この結果から、タイプIにおいては、どの領域も概ね定着が図られていると言えるが、個々の内容において、十分定着しているとは言えないものがある。タイプIIにおいては、依然として学習した知識を活用する力などに課題がある。
- 昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は、タイプI、IIともに概ね定着が図られていた。課題は「図形領域」であった。そこで次のことを工夫して課題改善に取り組んだ。
 - ・図形の学習の際には、図形の定義・性質を操作活動等を通して理解させ、作図の際には、図形の定義や性質と関連付けながら指導した。
 - ・グラフや資料等を扱う学習では、グラフの特徴や変化を数値等から一つ一つの根拠を挙げて、筋道を立てた説明をするよう指導をした。

重点課題

【課題1】

ひし形の定義・性質を使って作図できるかを見取る問題において課題があり、図形の定義・性質の理解が十分ではないことが考えられる。また、作図の方法(コンパスや分度器の使い方)に課題がある。(設問7通過率61.5%)

【課題2】

種類の違う2つのグラフの内容を比較・関連付けて答える内容において課題があった。グラフの種類ごとに数字を読み取ったり、それぞれの特徴をとらえたりすることが十分でないと考えられる。また、資料を比較して、そこから読み取れることの意味を適切に説明することに課題がある。(設問10(2)43.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

図形の学習の際には、図形の定義・性質を操作活動等を通して理解させていく。作図の際には、図形の定義や性質と関連付けながら指導する。また、コンパスや分度器、三角定規など、それぞれの道具の用途を丁寧に指導し、繰り返し使わせていく。

【課題2】

グラフや資料等を扱う学習では、一つのグラフや資料のみを読み取る内容だけでなく、複数のグラフや資料を比較したり、関連させたりする教材を扱う。

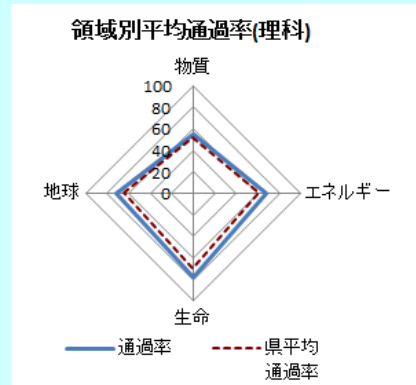
資料を比較して特徴を説明する際には、一方の資料の特徴のみを答えるのではなく、「Aは〇〇である。Bは〇〇である。だからCと言える。」というように、一つ一つの根拠を挙げて、筋道立てた説明の仕方を指導していく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問7類似問題		3~6年 学力標準調査(図形)		4, 5年 大問7類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率70%		全国平均値以上		通過率75%
実施後数値	評価・改善						

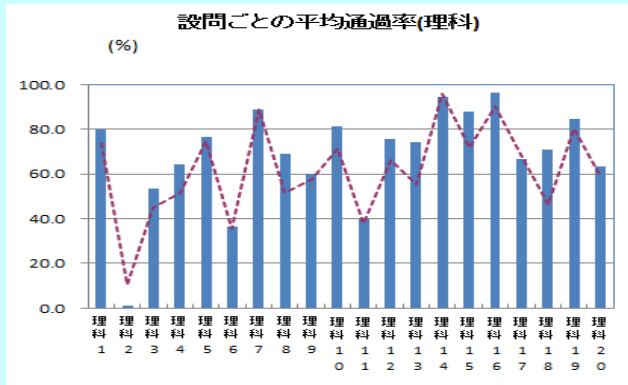
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問10類似問題		3~6年 学力標準調査 記述問題		4, 5年 大問10類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率50%		全国平均値以上		通過率55%
実施後数値	評価・改善						

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.3%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向
理科の結果において、タイプⅠは75.6%、タイプⅡは59.4%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えられるが、通過率の低い設問もあり、十分定着しているとは言えない。特に、「根拠に基づいた予想・仮説」「予想・仮説を検証する実験方法の立案」「予想や仮説に基づいて実験結果の予想」など、問題解決の前半の過程に課題があり、適切な言葉を用いながら筋道立てて説明することが難しい児童が多い。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
昨年度は、学習した知識・技能を活用する力 (関係付けながら考え、説明する。視点を変えて比較する。) に課題があると考え、次のような取組を行った。

- ①児童の問題意識に支えられた見通しをもった学習を展開する。
- ②比較したり関係付けたりしながら考えさせ、端折らず、順を追って説明させる
- ③実物や模型に触れながら、実感を伴った理解を図る。

その結果、全の領域で通過率が上がり、改善が図られたが、根拠を挙げて説明することや実験器具の扱い方についての課題改善には至らなかった。

重点課題

【課題1】

既習を基に予想をもち、予想を検証する実験方法を立案し、予想・仮説に基づいた実験結果の予想をすることに課題がある。具体的には、①閉じ込めた空気を押し縮めたときの体積変化と押し返す力の関係を検証する実験方法を考えること ②水、空気の温まり方を基に金属の温まり方を予想し実験結果を見通すことについて、筋道立てて考え、必要な事柄を関係付けながら順序良く説明することに課題がある。(通過率 設問1(2)1.1%, 設問2(1)53.3%, (2)64.4%)

【課題2】

光の性質についての理解とその活用に課題がある。具体的には、平面鏡で反射させて日光を集めて物に当てたときの物の温かさの変化について、平面鏡1枚を使用したときの現象と複数枚使用したときの現象を比較しながら考え説明することに課題がある。(通過率 設問3(1)36.7%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

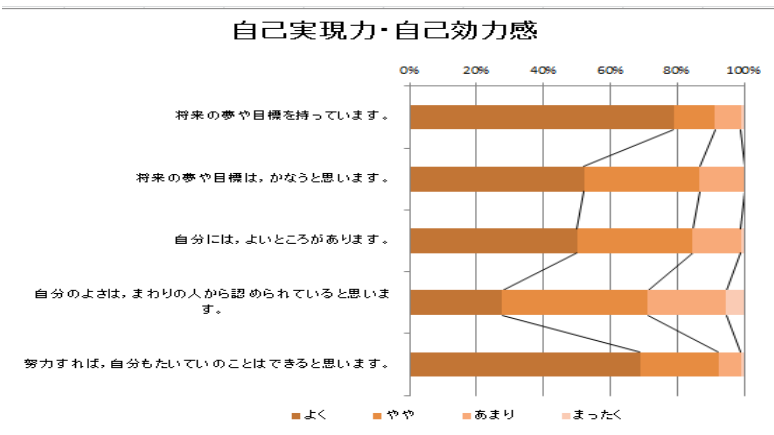
【課題1・2】

- ・自然や実生活の中で起こる事象について、既有的知識や経験をもとに考えたり既習の科学的な言葉や概念を使用して自らの考えを説明したりする活動を「予想・仮説」「実験計画立案」「結果の予想」「考察」などの過程で行う。その際、根拠を挙げつつ、既習の科学的な言葉や概念を使用したり適切な言葉を選んだりしながら自らの考えを書かせたり説明させたりする。特に、中学年では比較したり関係付けたりしながら考えさせ、端折らず、順を追って説明させるようにする。
- ・「光の性質」「閉じ込めた空気と水」「金属、水、空気と温度」など、実体のない事象に関わる学習については、気付きや考えを話したり書いたりすることを通して表出させ、教師が児童のもつ概念を把握する。そして、観察・実験などの体験的な学習やモデル図を用いた説明的な学習を通して、実感を伴った理解を図る。さらに、グループや学級全体で話し合ったり説明したりすることを通して、児童のもつ概念をより科学的なものに高め、理解を深める。
- ・実験や観察を行う際には、安全に活動すること、正しい手順で実験・観察を行うことだけでなく、実験器具の名称、使用方法等を指導するとともに、他の単元や他教科等においても機会を設けて繰り返し体験的に学ばせるようにする。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問2 類似問題		3~6年 学力標準調査		4, 5年 大問2 類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率60%		全国平均値以上		通過率65%
実施後数値	評価・改善						
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	帯タイム・個別指導		4, 5年 大問3 類似問題		3~6年 学力標準調査		4, 5年 大問3 類似問題
目標値	授業改善 評価テストによる		通過率40%		全国平均値以上		通過率45%
実施後数値	評価・改善						

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

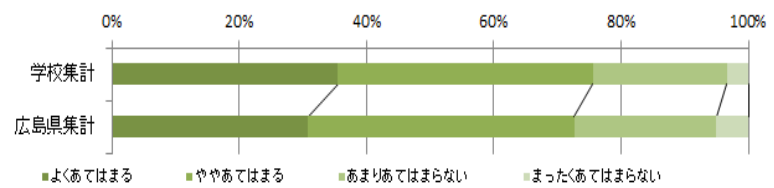
(1) 生活・学習



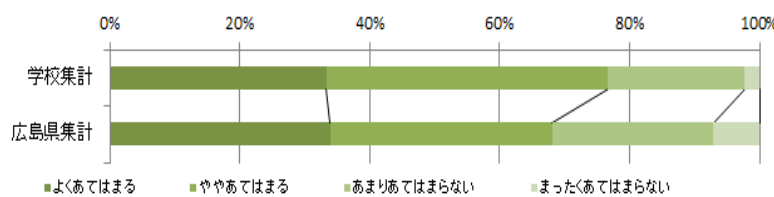
児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「自分には、よいところがあります。」の設問項目は、改善され（84.4%）目標値80%に達した。 また、「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の設問項目（71.1%）も、昨年度より改善されているものの、目標値とは隔たりがある。	授業において、授業改善に努め、全員が「分かった」「できた」授業作りを目指すとともに、一人一人が考えを出し合い、深まったことを実感できるように、自己を振り返り、認め合う場を大切にする。 係活動、委員会活動などを通して、達成感をもたせるようにするとともに、役割の遂行・貢献を実感できる場を設定する。	3 4 5 6	80%	「生活・学習アンケート」の実施	2月		

(2) 教科

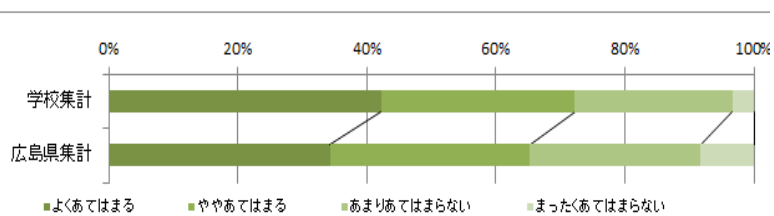
国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて、話の中心を考えながら聞いたりしています。」について、肯定的評価は75.6%であり、分かりやすく話す、しっかり聞くことが課題である。	伝えたいことの中心を明確にして話すために、メモを作成したり、話型を示したりする。 話の中心を考えながら聞くためにメモの取り方を指導する機会を設定する。	3 4 5 6	80%	「生活・学習アンケート」の実施	2月		
算数	「算数の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式にあてはまる問題を作ったりしています。」について、肯定的な評価は71.1%である。	問題を解く際、場面をイメージさせる。式だけでなく、図や言葉を用いて問題場面を表現する。 式や図から、問題を作る活動にも適宜取り組む。	3 4 5 6	75%	「生活・学習アンケート」の実施	2月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」について、肯定的評価は、72.2%である。	一人一人がノートにまとめることを重視するとともに、ペアや小集団の中で考えを出し合う場を意図的に設定し、発表したり説明したりすることに慣れさせ、話し合うよさを実感できるようにする。	3 4 5 6	75%	「生活・学習アンケート」の実施	2月		